

委員会

産建文教

アルカディア財団の決算が黒字に

6月16日に本委員会を開催し、請願審査3件と所管事務調査を行いました。

米価維持・米備蓄体制の早期実現・米戸別所得補償モデル事業などにかかる請願2件は、全会一致で採択となりました。

教育環境の整備・教員待遇改善・教育予算の拡充などにかかる請願は、教職員の就労が長時間にわたっている実態があるなどとして、賛成多数で採択となりました。

白鷹町土地開発公社の経営状況に関する質疑のなかで、元嘱託職員から160万円返還されたことと元常務理事より200万円が町に寄付されたことが明らかになりました。

アルカディア財団の経営状況は、デフレ・不景気感が色濃い厳しい環境のなか、情報関係事業でシステム開発やパソコン関連機器販売の事業収入が4135万円あり、282万円の黒字決算だったとの報告を受けました。

その後、

・(仮称)白鷹町産業センターの整備状況(工期10月29日)



現地視察(産業センター建設予定地)

・子育て支援住宅整備状況(工期6月18日)
・中央公民館大ホール解体(9月完了予定)

について各担当課から説明を受けました。

また、産業センターが増築される勤労者総合福祉センター(パワーセンター)と総合情報センター、設備投資が必要になっているパレス松風の現地視察を行いました。

鮎貝まちづくり事業調査特別委員会

町民主体の管理運営を

5月25日に本委員会を開催し、文化交流センター「あゆむ」の管理運営について当局から、来年4月から指定管理者制度に移行して管理するため、条例を改正したいとの説明がありました。

議員からは、あゆむは、町民が主体となつて管理運営にも携っていくことを基本としてきた経緯があり、NPOなどを育てることもまちづくり交付金事業の条件で、それらのことへの努力も足りず、またどのような指定管理者にしていくか基本的なことがないのに指定管理者制度だけを先行させるのはおかしいとの意見がありました。

6月9日に再度委員会を開催し、指定管理者制度を採用するにしても、先の課題に向けて最大限の努力をし、かつ指定管理者制度採用後も、町民主体の管理運営を基本にしていくこととしました。